

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	仙台工科専門学校
設置者名	学校法人 北杜学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	測量学科	夜・通信	240時間	80時間	
	環境土木工学科	夜・通信	525時間	160時間	
工業専門課程	建築デザイン学科	夜・通信	1,785時間	160時間	
	大工技能学科	夜・通信	1,020時間	160時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校のHP(<https://sks.ac.jp/disclosure/>)にアップしております。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	仙台工科専門学校
設置者名	学校法人 北杜学園

1. 理事(役員)名簿の公表方法

<p>仙台工科専門学校ホームページ</p> <p>情報公開 学校評価関係 北杜学園 事業報告</p> <p>「令和5年度 事業報告書 学校法人北杜学園」4～5ページ参照</p> <p><a href="https://sks.ac.jp/disclosure/">https://sks.ac.jp/disclosure/</a></p>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前仙台市副市長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	経営戦略の策定
(備考)			

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	仙台工科専門学校
設置者名	学校法人 北杜学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>次年度の授業科目のプロセスについて統括・各学科長を中心にミーティングを行い前年度末までにとりまとめて決定します。</p> <p>シラバス作成のガイドラインに基づき授業のやり方、内容、到達目標・成績評価の基準及び方法、又学校規定に沿って作成されているかを確認し、各科目担当の非常勤講師とも共有しながら授業計画書(シラバス)を作成します。</p> <p>教務統括が全学科分の授業計画書(シラバス)の最終確認をガイドラインと照らし合わせて精査します。確認後は1つのPDFファイルとしてシラバスを完成させ、校長の最終確認後、年度初めに本校HPにて公開が出来るように進めております。</p>	
授業計画書の公表方法	本校のHP ( <a href="https://sks.ac.jp/disclosure/">https://sks.ac.jp/disclosure/</a> )にアップする。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>授業科目の学習意欲の把握については、本校の教育課程及び授業計画書(シラバス)のカリキュラムに基づき履修認定をしている。</p> <p>各科目の評定は、各科目の定める評価方法・表価基準に従い決定される。</p> <p>成績の評価は、本試験、課題の提出物、学習態度、小テスト・出欠状況等を勘案して総合評価を行なっている。実習の評価は、技能力・成果品・実習への取り組み・出欠状況等により総合的に行なっている。60点以上を合格としており、不合格者には補講を行い、その後再試験を実施している。</p> <p>年2回(前期・後期)の成績認定会議を行い、各学科担当が成績評価に基づき評価した結果について教員全体で相互確認し共有している。</p> <p>特に授業の出席状況は、進級、卒業及び、成績を評価する際に重要な要素となるため担当が学生本人と二者面談を行っており、必要に応じては、保護者を含めた三者面談も行っている。その他の問題点等についても教員全体で相互確認しあい、改善策を立てて進めている。</p> <p>進級・卒業認定に関しては認定会議を行い、校長が最終決定をする。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取り組みの概要)

成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定については、学則別表で定める各科目の評定は各科目で定める評価方法・基準に従い決定される。成績の評価は、年間に実施する教科目の学生の成績を100点満点で表記(60点以上を合格基準)としている。

ただし、再試験の結果、合格となった科目の成績評価は60点【C】とする。

GPA 算出方法は以下の通り、最終的に成績通知表・成績証明書に表記する場合、4段階評価として表記する。

それぞれの成績評価に対して【GP】グレード・ポイントを付与する。

判定	成績評価点	成績評価	GP
合格	100点～80点	A	3.0
	79点～70点	B	2.0
	69点～60点	C	1.0
不合格	59点以下	D	0.0

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

本校の HP  
(<https://sks.ac.jp/disclosure/>)にアップする。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則第10条に定める授業科目の成績評価に基づき、試験・実習の成果・提出物・レポート、出席状況等を総合的に勘案して年度2回（前期・後期）成績会議を行います。学生全員の成績・出席状況・授業態度等の資料を基に認定要件を満たしているかを総合的に勘案して評価を認定し、校長が最終決定をします。

仙台工科専門学校学則第28条に基づき、施行細則第5条に該当する者は進級又は卒業をすることが出来ません。

**【進級及び卒業ができない基準】**

・学則第28条施行細則第5条に定める

1. 成績評価が60点未満【D】のある者
2. 試験を受けない者（試験時の無断欠席）
3. 出席率が教育課程（カリキュラム）表の年次毎の授業時間数の合計が90%に達しない者
4. 授業料を完納していない者

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

本校のHP  
(<https://sks.ac.jp/disclosure/>)にアップする。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表(専門学校)】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	仙台工科専門学校
設置者名	学校法人 北杜学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	仙台工科専門学校ホームページ 情報公開 学校評価関係 北杜学園 事業報告 「令和5年度 事業報告書 学校法人北杜学園」 貸借対照表:15 ページ、 収支計算書:12 ページ、 財産目録:18 ページ、 監事による監査報告書:19 ページ参照 <a href="https://sks.ac.jp/disclosure/">https://sks.ac.jp/disclosure/</a>
計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	測量学科				
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,230 単位時間 /64 単位	720 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	510 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1,230単位時間/64単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		26人	0人	4人	8人	12人	

<p>カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科は、修業年限が1年の学科です。          授業計画書(シラバス)に基づき、履修すべき授業時数は、国土地理院管轄の測量養成施設となっており、測量法で定められている教科目を規定の時間年間800時間以上1単位時間は45分の授業形態で行っております。          又、測量士補(測量士)になる為に必要な専門知識と技術を習得させる授業を行っています。</p> <p>授業は、講義と実習の形態で行われており、座学は仙台校舎で行い、実習は大和町宮床にある実習場で行われております。また県から道路・河川使用許可を頂き、実践力を身につける授業を行っています。</p> <p>また、関係法令に基づき測量士補(測量法第51条第3号)の国家資格を卒業と同時に取得する事が出来ます。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>(概要)</p> <p>成績評価については、学則第10条に定める授業科目の成績評価に基づき学科成績の評価は、本試験・小テスト・学習態度・レポート他課題の提出物・出欠状況等を勘案して総合的に行っている。          実習成績の評価は、技能力・実習への取り組み・成果品・出欠状況等により総合的に行っている。</p> <p>ペーパー試験で不合格となった学生に対しては補講を行い再試験を実施して再評価を行います。再試験の結果、合格となった科目の成績評価は60点【C】とする。学習態度・出席状況については状況に応じて担任が学生と二者面談を行い、その後保護者を含めた三者面談を行い、学習への意欲向上など状況改善に努めております。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業・進級の認定基準に関しては、後期試験後に卒業認定会議・進級認定会議を行い、学生全員の成績・出席状況・授業態度等の資料を基に認定要件を満たしているかを総合的に勘案して評価を認定し、校長が最終決定をします。</p> <p><b>【進級及び卒業ができない基準】</b>          ・学則第28条施行細則第5条に定める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績評価が60点未満【D】のある者</li> <li>2. 試験を受けない者(試験時の無断欠席)</li> <li>3. 出席率が教育課程(カリキュラム)表の年次毎の授業時間数の合計が90%に達しない者</li> <li>4. 授業料を完納していない者</li> </ol>

学修支援等
(概要) 担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しています。状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧められており状況の改善に努めている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
26人 (100%)	1人 (3.8%)	24人 (92.3%)	1人 (3.8%)
(主な就職、業界等) 測量設計会社・建設会社・土地家屋調査士事務所・官公庁（公務員）			
(就職指導内容) 担任・副担任による面談・書類作成指導や面接指導・企業との連絡等も含めて完全なサポートを行っております。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家資格である測量士補（測量士）の資格を卒業と同時に取得できます。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27人	1人	3.7%
(中途退学の主な理由) 学業不振 1名		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しています。状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧められており、状況の改善に努めています。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	環境土木工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,415 単位時間 ／130単位	1,545 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	870 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2,415 単位時間／130単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生 数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		52人	0人	4人	41人	45人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

本学科は、修業年限が2年の学科です。

授業計画書(シラバス)に基づき、履修すべき授業時数は、年間800時間以上で2年間で1,700時間以上となります。

国土地理院管轄の測量養成施設となっており、測量法第51条で定められている教科目を規定の時間で行っております。

1年次は測量士補(測量士)になる為に必要な専門知識と技術を習得させる授業となっております。また授業は講義と実習の形態で行われており、座学は仙台校舎で行い、実習は大和町宮床の実習場で行われています。また県から道路・河川使用許可を頂き実践力を身に付ける授業を行っております。

2年次は、土木工事の設計・施工管理など土木の内容について学びます。

又、補償コンサルタントなどの授業も行っています。このカリキュラムにより測量・建設会社の両方面の就職が可能です。卒業研究では、測量情報や地盤工学、建設材料などこれまでの学習とリンクさせ大学にも引けを取らない内容の授業となっております。専門の知識の定着を図っております。また国土交通省 東北技術事務所にて体験型実習を行なっています。今年もEE 東北に参加しました。

関係法令に基づき測量士補(測量法第51条第3号)の国家資格を卒業と同時に取得する事が出来ます。

成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価については、学則第10条に定める授業科目の成績評価に基づき          学科成績の評価は、本試験・小テスト・学習態度・レポート他課題の提出物・出欠状況等          を勘案して総合的に行っている。          実習成績の評価は、技能力・実習への取り組み・成果品・出欠状況等により総合的          に行っている。</p> <p>ペーパー試験で不合格となった学生に対しては補講を行い再試験を実施して再          評価を行います。再試験の結果、合格となった科目の成績評価は60点【C】とする。          学習態度・出席状況については状況に応じて担任が学生と二者面談を行い、その後          保護者を含めた三者面談を行い、学習への意欲向上など状況改善に努めております。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業・進級の認定基準に関しては、後期試験後に卒業認定会議・進級認定会議を          行い、学生全員の成績・出席状況・授業態度等の資料を基に認定要件を満たして          いるかを総合的に勘案して評価を認定し、校長が最終決定をします。</p> <p>【進級及び卒業ができない基準】          ・学則第28条施行細則第5条に定める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成績評価が60点未満【D】のある者</li> <li>2. 試験を受けない者(試験時の無断欠席)</li> <li>3. 出席率が教育課程(カリキュラム)表の年次毎の授業時間数の合計が90%に達しない者</li> <li>4. 授業料を完納していない者</li> </ol>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施して          います。状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧めて          おり状況の改善に努めている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32人 (100%)	0人 (0%)	32人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
建設会社・補償コンサルタント会社・測量設計会社・官公庁			
建設コンサルタント会社・測量・土木関係業界			

(就職指導内容)

担任・副担任による面談・書類作成指導や面接指導・企業との連絡等も含めて完全なサポートを行っております。

(主な学修成果(資格・検定等))

- ・測量士補(測量士)【国家資格】
- ・ローラー運転特別教育
- ・1・2級土木施工管理技士(補)
- ・玉掛け技能講習
- ・小型移動式クレーン運転技能講習
- ・フォークリフト技能講習
- ・小型車両系建設機械運転特別教育
- ・土地家屋調査士【国家資格】

(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
54人	2人	3.7%
(中途退学の主な理由)		
学業不振 2名		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しています。状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧めており、状況の改善に努めています。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	建築デザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義・演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,055単位時間 ／100単位	825 単位時間 ／単位	1,230 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2,055単位時間／100単位			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人	161人	0人	5人	25人	30人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本学科は、修業年限が2年の学科です。 授業計画書(シラバス)に基づき、履修すべき授業時数は、年間800時間以上で2年間で1,700時間以上となります。</p> <p>1年次は、住宅・店舗・公共施設・家具など建築の基礎として基礎製図・建築構造・建築計画などをカリキュラムに取り入れており、設計に関するスキルを幅広く身につけ、又手書きの製図やCADの操作方法を基礎・基本から学びます。</p> <p>2年次には卒業制作という科目で建築の計画・デザイン・設計までに至る工程を踏み、学生自身で手掛けた作品のプレゼンテーションを行ないます。建築・インテリアに関する幅広い知識を身に付け魅力的な建築物をデザイン・プレゼンできる建築士を目指せる授業をしております。</p> <p>選択科目の教科が導入されインテリア系(概論・製図・材料・実用CAD)・建設系(意匠設計・実用CAD・構造設計)の中から選択科目を決めて授業を受け、新たな知識の向上を目指しております。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価については、学則第10条に定める授業科目の成績評価に基づきペーパー試験・小テスト・学習態度・課題の提出・レポート出欠状況を含む平常点により総合的に勘案しております。総合評価で60点以上が合格となっております。</p> <p>ペーパー試験で不合格となった学生に対しては補講を行い、再試験を実施して再評価を行います。学習態度・出席状況については状況に応じて担任が学生と二者面談を行い、その後保護者を含めた三者面談を行い状況の改善に努めております。</p>

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業・進級の認定基準に関しては、後期試験後に卒業認定会議・進級認定会議を行い、学生全員の成績・出席状況・授業態度等の資料を基に認定要件を満たしているかを総合的に勘案して評価を認定し、校長が最終決定をします。</p> <p>【進級及び卒業ができない基準】</p> <p>・学則第28条施行細則第5条に定める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.成績評価が60点未満【D】のある者</li> <li>2.試験を受けない者(試験時の無断欠席)</li> <li>3.出席率が教育課程(カリキュラム)表の年次毎の授業時間数の合計が90%に達しない者</li> <li>4.授業料を完納していない者</li> </ol>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しており、状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧めております。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
81人 (100%)	1人 (1.2%)	76人 (93.8%)	4人 (4.9%)
(主な就職、業界等)			
建築設計事務所 ・ 総合建設会社 ・ ハウスメーカー ・ 建築設備会社 ・ 店舗設計会社他			
(就職指導内容)			
担任・副担任による面談・書類作成指導や面接指導・企業との連絡等も含めて完全なサポートを行っております。			

(主な学修成果(資格・検定等))	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一級建築士 ・ 二級建築士【国家資格】</li> <li>・ 1級・2級建築施工管理技士補</li> <li>・ 福祉住環境コーディネーター2級・3級</li> <li>・ インテリアコーディネーター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木造建築士【国家資格】</li> <li>・ 建築CAD検定2級・3級</li> <li>・ 商業施設士補</li> <li>・ 色彩士検定2級・3級</li> </ul>
(備考) (任意記載事項)	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
171人	10人	5.8%
(中途退学の主な理由)		
学校生活・学業不適応 3名		進路変更 4名
精神的不安定 2名		学業不振 1名
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しています。状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧めており、状況の改善に努めています。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
工業		工業専門課程	大工技能学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,055単位時間 ／88単位	645 単位時間 ／単位	1,410 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2,055 単位時間／88単位			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人		44人	0人	4人	13人	17人

<p>カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学科は、修業年限が2年の学科です。          授業計画書(シラバス)に基づき、履修すべき授業時数は、年間800時間以上で2年間で1,700時間以上となります。          又、東北で唯一「在来工法」と「2×4工法」の両方を学ぶことが出来る学科です。</p> <p>2種類の工法を学び3種類の模擬住宅建築に挑戦しています・          1年次に大工道具について基礎からしっかり学び、前期は従来工法で模擬住宅を建築し、後期は2×4工法で模擬住宅を建築します。          2年次は在来工法で原寸サイズの2階建ての模擬住宅を建築します。          それぞれの住宅建築の一連の流れを経験し、即戦力となる職人を養成します。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p>
<p>(概要)</p> <p>成績評価については、学則第10条に定める授業科目の成績評価に基づきペーパー試験・小テスト・学習態度・課題の提出・レポート出欠状況を含む平常点により総合的に勘案しております。総合評価で60点以上が合格となっております。</p> <p>ペーパー試験で不合格となった学生に対しては補講を行い、再試験を実施して再評価を行います。学習態度・出席状況については状況に応じて担任が学生と二者面談を行い、その後保護者を含めた三者面談を行い状況の改善に努めております。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業・進級の認定基準に関しては、後期試験後に卒業認定会議・進級認定会議を行い、学生全員の成績・出席状況・授業態度等の資料を基に認定要件を満たしているかを総合的に勘案して評価を認定し、校長が最終決定をします。</p> <p><b>【進級及び卒業ができない基準】</b>          ・学則第28条施行細則第5条に定める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.成績評価が60点未満【D】のある者</li> <li>2.試験を受けない者(試験時の無断欠席)</li> <li>3.出席率が教育課程(カリキュラム)表の年次毎の授業時間数の合計が90%に達しない者</li> <li>4.授業料を完納していない者</li> </ol>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しており、状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧めております。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 工務店      ハウスメーカー      総合建設会社 建築施工会社      建築資材会社他			
(就職指導内容) 担任・副担任による面談・書類作成指導や面接指導・企業との連絡等も含めて完全なサポートを行っております。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・建築大工技能士【国家資格】      ・木造建築士【国家資格】 ・2級建築施工管理技士補【国家資格】      ・2.3級建築 CAD 検定 ・1・2級建築士 【国家資格】			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	3人	6.8%
(中途退学の主な理由) 精神的不安定 2名                      学業不振 1名		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任・副担任制をとっており、本人・保護者との二者・三者面談を実施しています。状況に応じては学園内にある学生相談室のカウンセリングも勧めており、状況の改善に努めています。		



②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
測量学科	160,000 円	1,140,000 円	円	
環境土木工学科	160,000 円	1,020,000 円	円	
大工技能学科	160,000 円	1,020,000 円	円	
建築デザイン学科	160,000 円	940,000 円	円	

修学支援 (任意記載事項)

- ・「資格特待生制度」……………取得した資格により授業料を減免
- ・「北杜学園納付金延納制度」……………学納金を分割納入できる制度
- ・「高等教育の修学支援制度」……………学びたい意欲のある学生の為に入学金・授業料の減免と給付型奨学金の支給を併せて支援する制度。
- ・「日本学生支援機構奨学金制度」……………国内の専門学校等に進学する方を支援する制度です。
- ・「教育訓練給付制度」……………本校は、厚生労働省における「専門実践教育訓練指定講座」となっています。

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://sks.ac.jp/disclosure/>

学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
<p>「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会を設置し、学校関係者評価の結果並びに教育活動の状況や諸々の課題、また学校全体にかかわる情報を発信してまいります。</p> <p>そして本校教職員はその結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の向上に努めております。</p> <p>又、企業等と連携し、また協力を頂きながら学校教育の向上、学園理念である自主・友愛・至誠のもと地域社会に貢献できる豊かな人間性を備えた専門職業人を育成する。又、学校目標である「建学精神の中に学生像を位置づけ、調和のとれた心豊かで逞しい工業技術者の育成に努める」の期待に応えられる人材育成に取り組んでまいります。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人 宮城県公共嘱託登記土地家屋調査士協会 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
熱海建設株式会社 常務取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
株式会社佐元工務店 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
株式会社社会 魁設計 設計部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<a href="https://sks.ac.jp/disclosure/">https://sks.ac.jp/disclosure/</a>		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<a href="https://sks.ac.jp/">https://sks.ac.jp/</a>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H104391010198
学校名 (〇〇大学 等)	仙台工科専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人北杜学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		55人	54人	55人
内訳	第Ⅰ区分	30人	30人	
	第Ⅱ区分	21人	19人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				一人
合計 (年間)				55人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	人	0人	12人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	一人
計	人	0人	12人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。